



一乗小だより

深く考える子
進んで取り組む子
思いやりのある子

福井市一乗小学校 第88号
令和7年12月4日発行
TEL 43-2024 FAX 43-2025
E-mail : itijo-e@fukui-city.ed.jp

学校評価《第1回》考察 - 今後の教育活動の工夫 -

10月に行いました第1回学校評価の結果について、11月4日に第1報としてお知らせしたところですが、本校のスクールプランに照らし合わせて行いました考察についてお知らせします。その内容をご覧になり、ご意見等ありましたら学校までご連絡をいただきたいと思います。また、ご家庭でのお子様への声かけの工夫にも役立てていただけたら幸いです。

学校評価結果集計グラフの項目色分け

Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	Dまったくあてはまらない	Eわからない
----------	----------	-------------	--------------	--------

令和7年度 福井市一乗小学校スクールプラン
学校教育目標 人間性豊かに、たくましく生きる子の育成
（児童）
（保護者）
（教職員）
（地域）
（社会）
（児童）
（保護者）
（教職員）
（地域）
（社会）
今後の具体的な取組
スクールプラン → (拡大)
[スクールプラン](#) → (拡大)

《スクールプランより検証①》

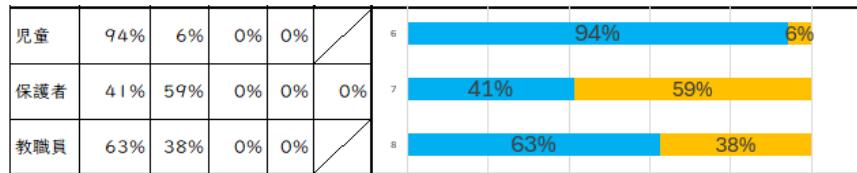
重点目標 深く考える子の育成

スクールプランの「めざす児童像」の1つ「深く考える子」の育成をねらい、3つの目標(学ぶ楽しさを実感できる授業づくり・学びを深める問い合わせと場の工夫・学びを追究する言語活動の充実)を設定し、以下の具体的な取組について実践してきた。

- わかる授業づくり → ICT活用により基礎基本の定着を図る
- 児童の考えを深めさせる場の設定 → 「問い合わせ」により言葉をつなぎ、相互に考えを深めさせる授業の実践
- 考えや思いを伝え合う協働的学びの工夫

→ 考えや思いを言語化する活動の推進 / 読書の充実を図り、言語化力の向上

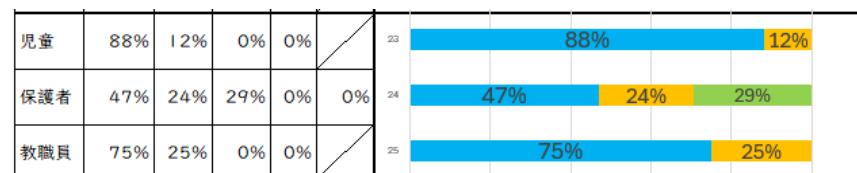
* 授業がよくわかる



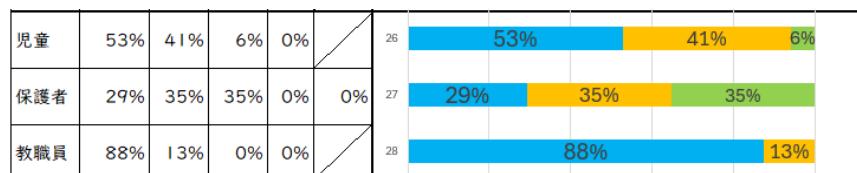
* 先生は授業内容を一生懸命教えてくれる。



* 問い返しにより相互に考えを深めることができる



* 適切な言語表現を用いて、自分の考えや思いを相手にわかりやすく伝えることができる



評価項目の「授業がよくわかる」では、A評価(あてはまる)、B評価(ややあてはまる)を全員の児童が選んでおり、日々の授業における教師の指導や工夫による成果だと考える。また、「先生は授業内容を一生懸命に教えてくれる」では全員の児童が「あてはまる」と回答しており、児童の学習への関心・意欲の向上も要因にあると考える。しかし、保護者や教職員の回答では「あてはまる」と言い切れない部分もあり、この数値に満足せず、日々の取組の充実を図っていきたい。

今年度、本校の研究実践の大きな柱である「問い合わせにより相互に考えを深めること」「適切な言語表現により自分の考えや思いを相手にわかりやすく伝えること」について、児童や保護者の回答にB評価やC評価「ややあてはまらない」が他の質問に比べ多く見られることから、振り返りの場面だけでなく、活動中の前向きな声かけをしながら、問い合わせの活動に対する自信を付けてていきたい。また、適切な言語表現に関する指導の工夫、充実も図っていきたい。

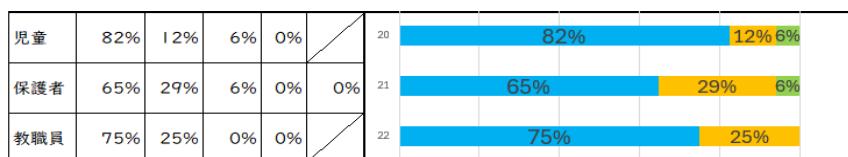
《スクールプランより検証②》

重点目標 進んで取り組む子の育成

スクールプランの「めざす児童像」の2つめ「進んで取り組む子」の育成をねらい、3つの目標（夢を育むキャリア教育の充実・自らを豊かにする生き方の推進・命を守る危機管理行動力の向上）を設定し、以下の具体的な取組について実践してきた。

- 児童会活動、交流体験活動を通し、児童が主体的に活動する場を工夫する。
- 将来の夢や希望の実現に向け、自ら考え進んで行動する。
- 心身の健康維持、交通安全、防災防犯、ICT の安全利用等について自ら考え行動する力を身につける。

* 委員会活動、地域やその他との様々な交流体験活動に主体的に取り組んでいる(80%)

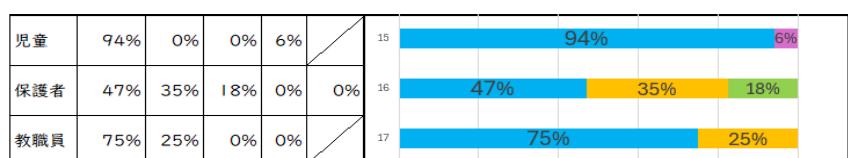


本校の特色である地域やその他との様々な「交流体験活動」を通して、今年度は児童が主体的に活動することに重点をおいて取り組んできた。学校評価の数値結果からも肯定的回答が多く、一定の成果は得られていると考える。

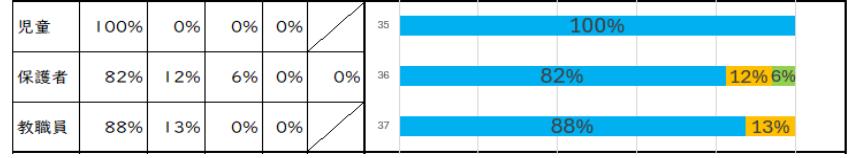
そして、その交流体験活動により小学校6年間で計画的に、発達段階にそった様々な経験や体験をすることで、将来への夢や希望をもち、さらには自己肯定感の向上へつなげていきたいと考えている。児童と保護者の数値結果には若干の違いが見られるものの肯定的な回答が多く、活動の成果が見られていると考える。

その他、安心安全な生活のために自ら行動する力をつけること、あいさつにより前向きな生活を送ろうとすることも重視し、自己評価や他者評価の結果をもとに次の活動へつなげる工夫点や改善点を見出していきたい。特に、児童と保護者の回答結果の違いに着目し、これまでの取組について改めて振り返ることが大切である。

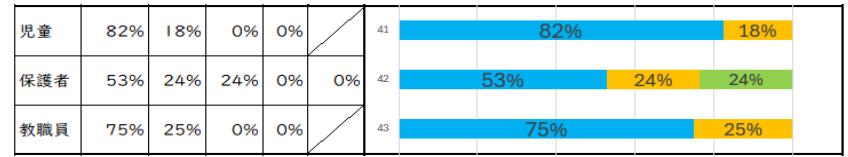
* 将来の夢やめざす目標をもっている(80%)



* 安心安全な学校生活をすごすことができる(80%)



* 自ら気持ちのよい挨拶や返事ができる(80%)



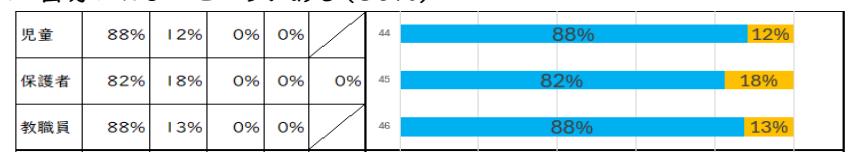
《スクールプランより検証③》

重点目標 思いやりのある子の育成

スクールプランの「めざす児童像」、3つめ「思いやりのある子」の育成をねらい、3つの目標（自己を高める活動の推進・自他を大切にする仲間づくり・生命、人権を尊重する集団づくり）を設定し、以下の具体的な取組について実践してきた。

- SGE や SSE の推進により人間関係づくりや自己肯定感の向上をめざす。
- 考え議論する道徳や交流体験活動の推進により自分や仲間の良さを認め合える仲間づくりを実践する。
- 生命、人権を尊重し、お互いの良さを認め共に活動できる場を工夫する。

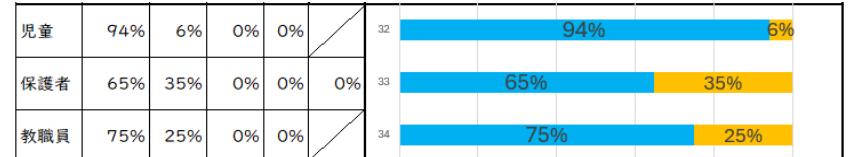
* 自分にはよいところがある(80%)



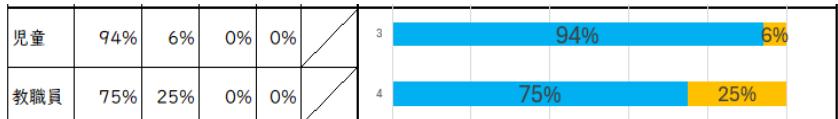
全ての学校教育活動を通して、『自己肯定感や自己有用感の向上』、『自分や仲間を大切にし、尊重し認め合える仲間づくり』、『いのちや人権を尊重し、お互いにそれぞれの良さを認め共に活動できる場の設定』を意識して取り組んでいる。

左にある学校評価の3つの項目においては児童、保護者、教職員が全て「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答となっている。本校では児童数や教職員数が少ないとから全校で活動することが多いが、学年の隔たりを感じさせることはなく仲良く活動している。特に、上級生が下級生のことを考えたり、活動に工夫

* 自分や仲間の良さを認め合うことができる(80%)



* みんなで何かをするのは楽しい(80%)



が見られたりする。地域の方や児童に関わった一般の方からは、児童の優しさのことを褒めていただくことが多いが、このことは本校の良さとして継続し、これからも児童の健やかな成長を促せるように様々な教育活動を工夫して行なっていきたい。

《スクールプランより検証④》

重点目標 地域とともに学ぶ学校

スクールプランの「めざす児童像」の実現に向けた取組を支える、4つめの重点目標「地域とともに学ぶ学校」を設定している。3つの目標(ふるさと一乗を愛する子の育成、家庭・地域・中学校区・各関係機関等との連携協働、家庭・地域との連携推進)の達成をめざし、以下の具体的な取組について実践してきた。

- 一乗こども観光大使、一乗みどりの少年団の活動を通してふるさとへの愛着や感謝の心を育む。
- 地域資源(自然・人・文化・歴史)を活用し、校外との様々な繋がりを重視した交流体験活動を推進する。
- ホームページや学校だよりなどを活用し、学校の教育活動や児童の学びの姿を公開し、家庭・地域との連携を進める。

* 郷土福井を大切にしたい(80%)



本校にとって地域やその他の関係機関とのつながりながら活動を進めることは、児童の学びを支え、発展させる上でとても重要なことであり、このこと抜きで本校の教育活動は考えられない。

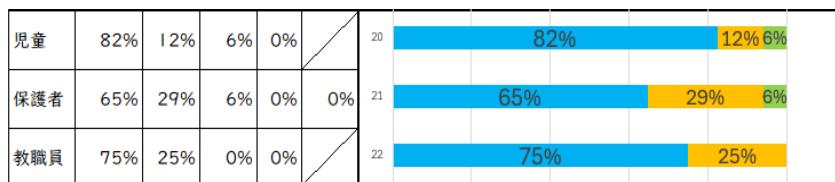
学校評価の項目「郷土福井を大切にしたい」では児童全員が肯定的回答を選択している。そして、児童が郷土福井への関心を高めたり、大切に感じたりできるように、教職員全員で活動を支えていることが学校評価の数値結果に見られる。保護者の回答でも肯定的回答が80%を越えており、活動の手応えを感じている。

これらの地域や様々な関係機関との交流体験活動の取組を含めた教育活動について、保護者が集まる機会や学校だより等を通して、できるだけ伝えるようにしている。学校評価の項目「学校は保護者に教育方針や教育内容を適切に伝えている」では全員の保護者が肯定的回答を選んでおり、その成果が現れていると考えている。

これからも学校と地域、保護者がつながりを強く持ちながら教育活動を進めていくこと、その取組を広く発信し続けることで、そのつながりはさらに強化され、学校との信頼関係も深まっていくと考える。ここにある重点目標、そして具体的な取組については今後も継続し、工夫しながら進めていきたい。

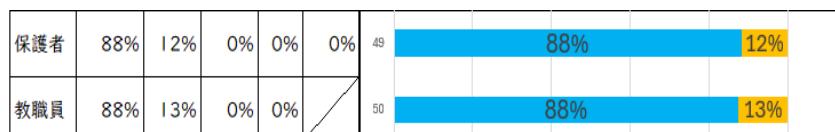
* 児童は郷土福井への関心を高くもって、地域やその他の交流

体験活動に十分取り組んでいる(80%)



* 学校は保護者に教育方針や教育内容を適切に伝えている

(80%)

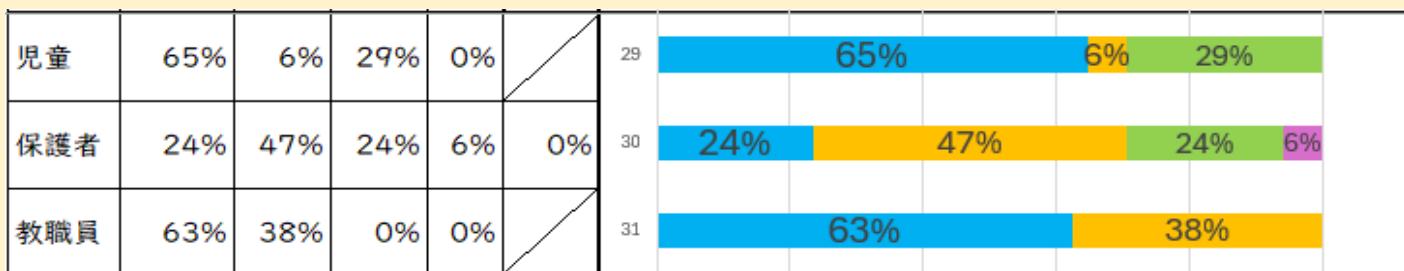


その他、次に挙げる項目「すすんで勉強」「情報機器(ゲームを含む)の適切な使い方」「保護者の学校への相談」についても学校の課題としてとらえ、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと思います。

【児童】しゅくだいのほかに すすんで、べんきょうをしている。

【保護者】わが子は、自主的、主体的に学習に取り組んでいる。

【教職員】自分は、児童が主体的に学習に取り組めるような指導をしている。



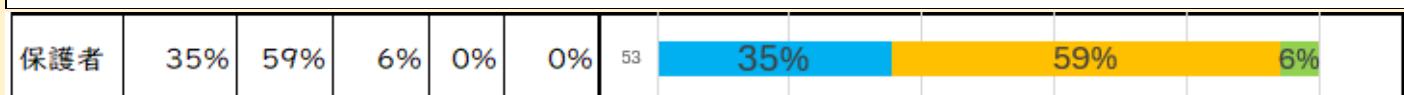
【児童】「いちじょうスマートルール」をまもっている。

【保護者】親として情報モラル（一乗スマートルールなど）について、わが子の年齢に応じた指導を心がけている。

【教職員】自分は、学年に応じて、情報モラルやネット利用について指導し、児童の意識向上に努めている。



【保護者】子どものことで、気軽に学校に相談できる。



インフルエンザ警報が発令されました！

福井県では、インフルエンザの報告数が急増し、定点あたり報告数が43.79人に達したため、11月27日付で「注意報」から「警報」に切り替わりました。今後、学校や家庭での予防を一層徹底する必要があります。

「定卓あたり報告数」というのは、インフルエンザの流行状況を把握するための指標です。

福井県内には、感染症の発生状況を定期的に報告する「定点医療機関」が複数あります。その医療機関ごとに、一定期間（通常は1週間）に診断されたインフルエンザ患者数を報告します。

今回の数値（43.79人）は、1つの定点医療機関で1週間に約44人の患者が報告されているという意味で、非常に高い値であり、流行が急速に拡大していることを示します。この数値が一定の基準（福井県では通常30人程度）を超えると「警報」が発令されます。

《予防のためにできること》 … 福井県感染症情報より

- ◇ 手洗いの徹底　外出後は、流水と石けんでしっかりと手を洗いましょう。
 - ◇ 室内の湿度を保つ　加湿器などで湿度50～60%を目安に。
 - ◇ 十分な休養と栄養　体の抵抗力を高めるため、睡眠とバランスの取れた食事を心がけましょう。
 - ◇ 人混みを避ける　特に高齢者や基礎疾患のある方、妊婦は注意。外出時は不織布マスクの着用が有効です。
 - ◇ こまめな換気　季節を問わず、室内の空気を入れ替えましょう。
 - ◇ ワクチン接種　医療機関に相談し、早めの接種をご検討ください。



詳しい情報は福井県の感染症情報ページをご覧ください。

《もし感染したかもしないときは》

- ◆ 無理をして学校や職場に行かず、安静にして休養をとりましょう。
 - ◆ 水分をしっかり補給してください。
 - ◆ 咳やくしゃみがある場合は、咳エチケット(マスク着用、ティッシュや腕で口鼻を覆う)を徹底しましょう。
 - ◆ 高熱が続く、呼吸が苦しい、意識がもうろうとする場合は、早めに医療機関を受診してください。
 - ◆ 救急電話相談：こども「#8000」おとな「#7119」

ださい。


……切り取り……

学校へのご意見やご感想をお知らせください。

こちらからも可 →→→



年　名前

(無記名でも構いません)